

多数の学生、教職員を抱える大学の問題

早稲田大学総合健康教育センター所長 教授
石堂 常世

新型インフルエンザ到来の予兆に対して、大学はビビッドな危機管理対策をたてるべきである。そのことは、多数の学生、教職員をかかえる教育・研究機関として、人的生命の保護ならびに教育・研究活動の機能停止・中止を可能な限り回避する見地から、被害を最小限度にとどめるというリスク管理の上で求められる。

昨年の麻疹（はしか）集団感染は、医療問題であって医療問題に終わらない複合的な全学的危機管理対策のノウハウを教えるものであった。求められるのは、見えない敵ともいえる「新しい感染症」に対して、何を問題にすべきか、どう備えるかの予測・予知・予防の総合的知見と緻密な対策である。

大学という集合体にとって、「感染源を持ち込まない・感染経路を断つ」ための方策の観点から、新型インフルエンザ対策委員会といった学内の危機管理協力体制の確立とフェーズ段階に応じたプランニング（全学的マニュアル作成と学内関連諸部門の意思統一）が要点となるのであり、学内の一医療機関（診療所等）が対応できる問題ではないということである。

そのためには、関連情報の迅速にして継続的な収集と管理、新型インフルエンザの知識と予防策の頻繁な啓発的教育（講演会、学内新聞への記事掲載、リーフレットの配付、オンデマンド映像配信等）、大学閉鎖・休講措置に踏み切らねばならないフェーズ段階の確認と休講措置決定の発令形態、大学機能維持スタッフの就業問題と彼等へのタミフル等の投与措置、パンデミック段階での全構成員との連絡網（インターネット回線、専用電回線）、受け入れ外国人学生、海外留学生や派遣学生、海外渡航者に関して予想される多角的な連絡対応手順、構成員の精神的混乱の回避方法、診療所等の特別緊急体制の整備と医療スタッフの意思統一、官公庁、自治体とくに地元保健所（含発熱外来センター）や公的大規模医療機関との連携網、収束後の速やかな状況復帰対策などである。

本学としては、2007年5月から協議を開始し、可能な範囲で体制を整えてきている。

日本医療学会 市民シンポジウム
**「みんなで備えよう！
新型インフルエンザ」**

対面シンポジウム→ネットシンポジウム

2008年6月21日(土)13:00—16:00

於 明治大学リバティーホール

主催 日本医療学会

第1部 講演の部

そのとき、町は、学校は、会社はどうする？

学校関係者からの提言

多数の学生、教職員を抱える大学の問題

石 堂 常 世 早稲田大学教授
同大学総合健康教育センター所長

去年の経験を活かす！

麻疹（はしか）対策に学んだもの

あるいは、SARS対策から得たものも含めて

- 医療問題の全学的危機管理対策
という初めての経験！
- 医療問題であって、医療問題に終わらないという問題の複合性

麻疹対策から得た重要ポイント

- 迅速な対応：対策委員会の設置
- 外部情報の集約と学内罹患者状況把握のシステム化
- 学生へのNET連絡網の設定・学生からの相談窓口対応の徹底
- 医療スタッフの統一的行動 etc.

学生諸君へ

学内からはしかを

撲滅しよう!!

うつしてはいけない!!

うつってはいけない!!

早稲田大学 総合健康教育センター TEL 03(3202)0580

<http://www.waseda.jp/kenkou/center/HSC/>

新型インフルエンザという 新しい感染症

- 過去に人類が感染したことがない
- 強力な感染力をもつ
- 感染経路の国際的な広がり
- 進行中のワクチン開発：実効性・備蓄量
- 見えない敵を恐れ、それへの防戦を張る！

**大学としてこの新しい感染症に対して
何を問題にすべきか、どう備えるか！**

求められる危機の予測・予知・予防の総合知

大学という集合体にとっての要点

○感染源をもちこまない

○感染経路を断つための方策

○構成員の精神的混乱を回避する

○自治体とくに地元保健所（発熱相談センター）との連携

○交通機関情報の入手

○収束後、教育&研究の場への速やかな復帰をはかる

予測される問題と対策(1)

- ◇新型インフルエンザ「マニュアル」の作成
- ◇新型インフルエンザ対策委員会の常設
 - ・フェーズに応じた対策
 - ・大学本部関係箇所の意思・歩調統一
総務部、教務部、学生部、国際部、広報課、
診療所(総合健康教育センター)など
- ◇本部サイドと各箇所(学部、院、付属学校等)の
対策案の調整と共通理解

予測される問題と対策(2)

◇大学閉鎖・休講措置の問題

- ・時期と発令形態
- ・措置解除後の学業履修対策

◇留学生、海外渡航者関係

外国への派遣、留学生の受け入れ(外国人学生)から来る諸問題の予測と対応手順の整理

◇人事管理上の問題

- ・フェーズ4B(国内発生)での大学機能維持スタッフ(含医療者)の就業に関する問題解決と、予防薬(プレパンデミックワクチン)投与の問題

予測される問題と対策(3)

新型インフルエンザの基礎知識の啓発活動
ならびに大学としての行動方針の周知徹底

対 学生、教職員、保証人

- ・日常の感染防止に役立つマナー
- ・学内新聞への解説と予防の記事
- ・情報ソース(公的HP)の周知
- ・専門家による講演会
- ・リーフレット、パンフレットの配布
- ・オンデマンド映像の配信など

予測される問題と対策(4)

大学内の医療機関の準備と対応

■ ■ フェーズに応じたきめ細かな救援・医療対策を練る(例) ■ ■

フェーズ3 (現在) 通常の診療

大学全体としての準備対策に倣う

フェーズ4A (国内非発生): 事前準備体制段階、PPCの着用等

フェーズ4B (国内発生): 大学休講・大学閉鎖の準備段階

- ・二次感染防止のため臨時診療室の設置等
- ・「発熱センター」等との連絡
- ・電話相談対応の開始等

フェーズ4B+ (関東地方、都内発生): 大学休講・大学閉鎖

※学生相談室の対応としては電話相談体制の準備を要す

精神科としては、服薬中の薬の事前処方等

大学にとって

急がれる慎重な対策

- ◇麻疹とは別次元の対策を！
- ◇大学行政者と医療者との協議と合意！
- ◇全学的な意見調整の機構設置！
- ◇情報網の確立！
- ◇大学の学生数やキャンパスに応じた対策！